

アッキーの
スマイル
対談

世界一の

穴リストに聞く

安倍昭恵

総理夫人

富田洋

ジオ・サーチ株式会社
代表取締役社長

写真／浅岡敬史

富田 八十キロで走りながら空洞を見つけるといって、世界初の技術です。
安倍 道路によってはスピード違反になってしまいますね(笑)。

調査距離は地球四周分！

安倍 今日はよろしくお願いたします。富田さんは一言でいえば、「地中に隠されている空洞を発見する名人」なんですよ。いわば「地下の穴

リスト(笑)——そこで今回はそのご苦労話を伺いたいです。初めてお会いしたのは確か……。

富田 はい、最初の出会いは三・一震災孤児遺児文化・スポーツ支援機構の催しでしたね。パティシエの鑑塚さんたちと一緒に子供たちの応

援に行った時にお会いし、資料をお渡したら話を聞きたいと連絡をいただいて。被災後の空洞化発生の状況をご説明したのが最初、二回目が去年の十一月の博多の陥没の後、説明会をして欲しいということでお話しさせていただいた時でしたね。

安倍 そう、博多駅前の陥没事故！

富田 三十メートル四方にも及ぶ範囲で陥没したんです。

安倍 作業員の方々は避難されて、

復旧前の安全確認調査の状況(二〇一六年のJFR博多駅前道路の陥没現場)



幸いけが人は出ませんでしたよ。ね。

富田 はい。不幸中の幸いでした。私どもは福岡市から要請を受け、当日の夜から出動準備しました。そして復旧前・後の安全確認調査を実施しました。

安倍 一週間で復旧した速さに驚きましたが、諸外国はもっと驚いていましたね。自分の国なら何年もかかるのって(笑)。

富田 高島市長が陣頭指揮を取られたので現場も動き、流動化処理土を注入し、破損した地下インフラを修復。地表部まで注入し舗装後に交通開放しました。

安倍 陥没でどんな影響が？

富田 陥没は地下鉄や上下水道がガス、電力などの地下インフラが幅転している国内外の大都市

で多発しています。

高島市長から「地下インフラが幅転している地方自治体が率先してやるべきだが、どうしたらいいか」と聞かれ、「空洞調査も重要ですが、これは手段です。陥没予防を目的とした対策が必要です。我々は東大と共同研究しているのです、陥没予防や防災計画の提案もできます」とアドバイスをさせてもらいましたが、そこからは早かったんです。

安倍 どのくらい早かったんですか？

富田 二週間後に高島市長が、今回の陥没事故を教訓として、空洞調査の強化とその結果を東大と共同研究すること、そこで得られた陥没予防対策の知見を全国に発信すると記者発表をしました。

さらに高島市長は、日本で初めて



とみた ひろし

ジオ・サーチ株式会社代表取締役社長。1953年生まれ。兵庫県出身。1989年ジオ・サーチ社を設立し世界初の道路陥没を予防するシステムを実用化。98年世界初の企業連合による地雷除去NGO JAHDSを創設し活動を現地団体へ06年に継承。3.11大震災直後から被災地での陥没予防と国内外の事前防災・減災に向けて活動中。2015年慶応大学理工学部へ寄附講座「貢献工学・減災学」を開設。2001年慶應義塾大学理工学部、第1回 矢上賞、2012年アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー特別賞、2015年古屋圭司（初代国土強靱化）大臣賞などを受賞。

とはといえば、地雷探査技術から生まれたものです。
安倍 そう、地雷除去現場。私も行ったことがあるんです。
富田 昭恵さんの著作を読ませていただきましたが、地雷除去の現場に行かれていたり、共通点があるなど思いました。

安倍 たまたま行ったという感じなので、共通点なんて言われてしまう……（笑）。
富田 東日本大震災の支援など現場に入られていますし、教育もされています。貢献するという気持ちで、人一倍強くもたれている方なんだという印象を強く受けました。

安倍 いえいえ、富田さんと比べると（笑）。富田さんは本当にすごい人生を歩まれていますよね。

落第した科目が生業に

富田 私は落第生なんですよ（笑）。大学を一年落第したのですが、落第の科目が電磁気学、マイクロ波だったんです。

安倍 今はそのマイクロ波で世界唯一の技術を持ち、特許を取得されているんですから、人生って不思議ですよ（笑）。

富田 落第した一年の間、船員として四か国を放浪したこともあり、海外に関係ある企業に就職しようと考えました。三井海洋開発に入り、ヒューストンの事務所の駐在員として働いていたんですが、そこで一番



あべ あきえ

安倍晋三内閣総理大臣夫人。1962年生まれ。聖心女子専門学校卒業。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修士課程修了。修士号（比較組織ネットワーク学）取得。電通を経て、1987年に安倍晋三氏と結婚。Facebookで日々の活動を伝えている。「長州友の会」で環境問題の勉強会などに尽力。「昭恵米」の田植えと稲刈りを毎年行ない、野菜農家にも足を運んでいる。著書に「安倍昭恵の日本のおいしいものを届けたい！ 私がUZIを始めた理由」（世界文化社）、「どういう時に幸せを感じますか？」（ワック）、「私」を生きる」（海電社）がある。

九州の全自治体が災害時に連携するという覚書を交わすということもされたんです。

安倍 それはすごいですね！

熊本地震でも大活躍

富田 昨年の熊本地震の時も、すぐ

に来て欲しいと要請があり、調査に参加しました。宇城市では阿蘇水系を使って飲み水を供給していますが、下水管が割れ、汚水が入ってしまっただけです。

そこで走行しながらマイクロ波を照射して地下の異常箇所を発見することができるようになりました。もう

で調査し、二カ月で七百余カ所の空洞を見つけることができました。

安倍 透けるカー（車）？

富田 はい（笑）。走りながら空洞を見つけるという、私たちが開発した世界初の技術を搭載した車です。開発当時は時速三十キロでしたが、今では八十キロで走ることができます。

安倍 道路によってはスピード違反になってしまいますね（笑）。富田さんの会社の特許ですか。

富田 はい、世界で唯一です。最新のスケルカは地下と地上の状況を合成し、何がどこに入っているのかも可視化できるようになりました。

安倍 えー。すごいですね。

富田 小池都知事が進めようとしている無電柱化にぴったりの技術です。インフラの3Dマップが出来るとい

不得意なマイク口波に再び出会ってしまった(笑)。しかし、そこで徹底的に習得し、その技術を活用した新規事業を本社に提案したら採用されたんですよ。その技術を持って帰国し、走りながらコンクリートの厚さと背面の空洞を見つめるトンネル調査システムを考案・実用化しました。

これが東京電力の水力発電用トンネルの劣化診断で採用され、年商三億円規模の社内ベンチャーに成長したのですが……。これから本格的に稼働となった時に会社が倒産。入社十二年目のことでした。

安倍 これからという時だったのに。
富田 もちろん社内ベンチャーも解散。そんな時に大学時代の先輩から東商の筆頭副会頭の佐々木秀



NTT 水道 ガス 下水 電気 不明管

地下インフラ3Dマップ。複雑な地下埋設物を地上部とあわせて透ける化!

一人を紹介してもらったんです。
安倍 学生時代からの親友は、本当に大切ですよ。何かあった時に一番に駆けつけてくれるのはやっぱり、学生時代からの友達ですね。

富田 佐々木さんのご協力をいただき、平成元年にジオ・サーチを創業しました。当時、銀座で道路が陥没し社会問題となっていました。既存の技術では陥没の原因となる空洞を発見することができませんでした。当時の建設省が走りながら道路の下を空洞を見つける技術の緊急開発プロジェクトを公募したんです。一年後に試作機が完成し、試運転は一週間後に天皇陛下の即位の礼のパレードが行われる予定のコースでした。

我々の調査で縦・横一メートル、

アスファルト直下に深さ三十センチの空洞を発見し、陥没予防の成果を上げたんです。他社も調査していましたが、空洞は発見できていなかった。パレードの二日前に見つけたということもあって、大いに評価されました。

安倍 これで事業が拡大できるか？

富田 そう思った矢先、節約して借りていた安い事務所を、大家さんの失火で焼け出されてしまった(笑)。

安倍 笑い話じゃないですよ(笑)。

富田 事務所が燃え、明日から露頭に迷うのかと思ったのですが、警察の現場検証時に、隣の事務所に空気が出たことを知りました。すぐさまオーナーさんに事務所を貸してくださいとお願ひに行ったら「他にも借りた」との申し出があるけれど、あなたの様子を見たら断れない」と優し

い言葉をいただいて、一年の制限付きで借りることができました。スズだけでお願ひに行ったものですか(笑)。

安倍 会社が倒産した時もそうでしたが、この時も助けてくれる人がいた。

富田 この体験から切羽詰まって困っている人から頼まれたら、断る理由など考えずに、どうしたら手助けできるかを考えて行動するということに気が付きました。さらに、当時、社員に厳しくしたせいで離反されてしまいましたね(笑)。

安倍 禍と福は入れ替わりやってくると思いますからね(笑)。

富田 会社の売上と利益を優先しすぎた結果です。会社設立以来、黒字を出すことを目的に厳しい経営をしていましたから。そこで京セラ創業者の稲盛和夫さ

んの稲盛塾に入り、「会社の使命は社会に貢献する事だ。売上や利益は大事だけれどそれは手段であって、会社は社員を幸せにし、さらに社会に貢献することが基軸だ」と教えていただきました。ただ、稲盛さんはメーカー、我々は救急医療的サービス業。ビジネスモデルが違いますよね。

安倍 会社としての使命は同じでも、ビジネスモデルが違うと。
富田 そこでセコム創業者の飯田亮さんに、目指す事業のあり方を教わりたいと手紙を書いたんです。会っていただけのことになり、初対面から非常に気に行っていたので、今もご指導いただいています。

地雷除去支援活動

富田 九二年に、国連の初代地雷除

去責任者のブラグデン准将から「ジオ・サーチの技術で対人地雷を見つけれないか」と突然に訪問を受けました。本業が忙しくて手を付けられなかったのですが、その二年後にスウェーデン政府から「国連がジオ・サーチを推薦しているので、ストックホルムで開催する『地雷除去関係者会議』に出席して欲しい」との要請があったんです。

安倍 ついに世界進出ですね。

富田 会議の場で唯一の日本人参加者ということで発言を求められ「日本国としては何ができるかわからないが、あまりの惨状を知り、一人の日本人としては何らかの協力・支援はしたい」とコメントしたんです。すると最初はヨーロッパ中心で対処するという表現だったものがインターナショナルで対処すると変わり、日本

も協力できる枠組みができたんです。帰国後、寝ても覚めても地雷探知技術コンセプトを研究しました。

一年後、外務省からジュネーブで開催される国際会議で地雷探知技術研究者として参加して欲しいと依頼されました。そして、五カ国代表の一人として技術コンセプトを発表し、高く評価されました。

それから三年かけて自前で試作機を製作し、九七年にはカンボジアの地雷原に入り、テストをしました。大きいものは見つけられたのですが、五センチほどの小さいものもあるんですね。これを見つけるのが大変でした。

安倍 五センチは小さいですね。

富田 さらに水や車、医療設備などもなく、地雷除去にはトータルでの支援が必要だと思ひ知らされました。

きていたみたい(笑)。ちなみに、会社はどうされていたんですか？

富田 会社経営をしながら年の半分は現地で活動しました。地雷原ですから、本当に苛酷で、今日もやっと生き抜いたと思うような生活でした。活動を四年続けて、ついに三カ月寝たきりになってしまったんです。その時にぐるなびの創業者滝久雄さんの本に「貢献する気持ちは本能。かわいそうだから助けてやるのではなく、やりたいからやっている」という言葉に出会ったんです。

まさに昭恵さんが実行されていることですよ。本能に素直に、そして自分がやりたくてやっているんだという思い。その言葉のおかげでまた頑張ることができたんです。

安倍 人はみんな、生まれてきた時に使命を持っていて、そういうところ

るに向かわされているんじゃないかと思うんです。私も主人も他の方たちもみんなそう。
富田 貢献する気持ちはみんな持っているけれど、危機になると本質が現れてくる。
安倍 平時には見えない本質のようなものが、有事には見えてきますよね。貢献する人もいれば、逃げちゃう人も。
富田 それからえげつなく稼ごうとする人間も(笑)。

幻のクメール遺跡の発見

富田 当時は、カンボジア側は危なかったのですが、タイ側は安全だし効率的だということで入ったところなんです。八九〇年頃から三百年かけて

飯田さんや稲盛さんに相談して「オー・ジャパンで協力体制を作ろう」ということになりました。そこでそれぞれの企業が持っている特技を国際貢献の名の下に集結し除去活動しようとして、協力を募る活動を開始しました。地雷探知機開発分野では、オムロン、日本IBM、現地機材分野ではキヤノン、トヨタにホンダなどなど二百五十社、千五百人からご支援をいただくことができました。

安倍 私は二〇〇八年に行きましたから、その十年前ですよ。私が行った頃は防火水槽のようなものに水が溜めてあって、その水で歯磨きなどができました。きれいなお水を使ったかと、ご一緒させていただいた曾野綾子先生が心配してくださった。でも、曾野先生も私も、頑丈に

作られた、アジア圏最大の遺跡の一つで、タイ語とカンボジア語、二つの呼称がある幻の遺跡です。日本ではアンコールワットが有名ですが、それよりも古い遺跡です。しかし、ポル・ポトの最後の陣地になってしまつて、周辺は地雷だらけ。

安倍 それは危ないですね。

富田 でも、ここへ観光客が来るようになれば経済復興できます。よし、この遺跡を世界遺産に登録させよう！との思いから再び除去を始めましたが、お金がかかって……。支援団体の一つである高野山が支援コンサートを開催するというので、参加依頼があり高野山の奥の院も訪ねたんです。

ここには二十万以上ものお墓があるのですが、その時にクメール遺跡も、文化と再生だけでなく、鎮魂の



フレア・ヴァヒア寺院とUthodプロジェクト地帯。カンボジア二番目の世界遺産として登録され、多くの観光客が訪れる。

想いを込めた活動にしたいと閃いたんです。そして「ピースロード・プロジェクト」と命名したところ、応援してくれる人が増え、どんどん現地も視察してもらえようになりました。除去した道には、遊歩道の手すりを作り、応援者五千人の名前を全て刻みました。

安倍 それはすごい！

富田 現地NGOを作り譲渡したのが二〇〇六年で、〇八年にはカンボジア二番目の世界遺産として登録されたんです。世界遺産にすることが我々のミッションだったんでしょね。

安倍 観光客も増えたでしょう。

富田 はい。本当にすごかった。
安倍 今まではみんなと競争するという社会だったけど、日本も震災を機に、あるものを取り合うのではなくて分かち合いましたよという方向に変わっているという気がします。

貢献の気持ちは人間にしかない

富田 そうだと思います。しかも、貢献する気持ちというか、相手を思いやる心ですよ、これは人間だけのものなんです。野生動物の世界では白目があると目立ち、夜襲われやすくて危険なために、猫やサルなど大多数の野生動物には白目がありません。

ところが人間には白目があるんですよ。あっちへ行け、こっちへ来いとの合図、つまり目配せは、実は白

目があるからできるんです。人間は無意識のうちに、この白目から他者の表情を分析して、喜怒哀楽を認識することができるんです。

安倍 でもうちの犬は、私の表情を認識しています(笑)。

富田 表情というより目を見ているんです。サングラスをされたら、犬はどう対応していいかわからなくなつて、パニックになります。

安倍 目だけです。表情はわからないんだ。

富田 表情も見ていますが、やつぱり目ですね。あとは声のトーン。

安倍 知らなかったです。でも、うちのロイは犬ですが、貢献する気持ちは確実に持っていると思います(笑)。

世界遺産登録というものすごいミッションを達成された富田さんで

すが、今後はどこへ向かって行かれるのですか。

富田 海外です。ソウルには支社があります。これから進出したいのは台北。そして北京、パリ、ロンドン、ニューヨークです。地下インフラのある、人口一千万以上のところはみんな同じ状況ですから。

また、東京オリンピックがありまますから、都内の道路の陥没予防対策を提案しています。二十三区内には幅五・五メートル以上の国道、都道、区道が計五千キロあり、想定される発生空洞数は一万余所。そのうち約一五パーセントの千五百カ所の空洞は、震度五の地震が発生すると陥没すると推測されていますから。

あとは貢献工学・減災学を広めるということもしていきたいです。
安倍 慶応大学の講座ですね。

富田 はい。日本は地球の表面積ではたったの四百分の一ですが、地球で起こる地震の十分の一が日本で起きているんです。そんな災害大国ですから、減災は非常に重要だと思っています。それと貢献工学。被災地で嫌というほど悪徳業者を見てきましたから。特に大企業は株主優先のあまり、倫理感がなくなつたのではないかと。会社への帰属意識が強いのは悪いことではありませんが「悪事をしろ」と言われて加担しまうのはおかしいと、若い世代にきちんと教えていかなければならないと思っています。

安倍 どれもとても重要なことですね。スケルカだけでなく富田さんにも、まだまだ走り続けていただきたいと思っています。今日は本当にありがとうございました。